

システムズ・デザイン (3766・JASDAQスタンダード)

2011年9月26日

モーニングスター（株）
祝出 洋輔

JASDAQアナリストレポート・プラットフォーム
<アップデートレポート>

システム開発への震災による影響は軽微

■ 一部開発案件に遅れ発生も、通期の業務量は計画通りとなる見通し

12年3月期1Qの連結業績は、売上高が前年同期比5.4%増の11億6,700万円、営業損益が5,100万円の赤字（前年同期は6,700万円の赤字）となった。東日本大震災の影響によりシステム開発事業の一部案件でプロジェクト開始に遅れが発生したため、収益回復ペースは当初想定に比べ緩やかなものとなった。

ただ、12年3月期の連結業績予想について会社側は、売上高が前年比11.6%増の61億3,200万円、営業利益が同53.4%増の2億1,000万円と期初予想を変更していない。期初予想については、震災の影響を折り込んでいないとしていたため、モーニングスターでは震災の影響がみえてきた時点で業績予想を修正する可能性があるとしていた。しかしながら、7月以降、震災による影響はほぼ解消されてきている上、通年ベースの業務量は計画値を維持していることから、通期業績に対する震災の影響は軽微になると会社側は想定している。

当社は本田技研工業をはじめ大手企業を安定顧客にもつため、震災の影響がなければ、安定した収益回復が見込まれる。震災以前から単価下落と業務量縮小が続いている情報処理サービス事業の伸び悩みは懸念材料だが、主力のシステム開発事業の震災の影響による進捗の遅れについても、受注案件のキャンセルなどは発生していないことから、通期の売上計画に対する影響は軽微とみられる。

主要指標 2011/09/20 現在							直前のレポート発行日	
株 価	285 円	売 買 単 位	100 株	予想配当 (2011年05月発表)	10.00 円	ベーシック	2011/01/31	
発行済株式数	3,940,000 株	時 価 総 額	1,122 百万円	実 績 P B R	0.31 倍	アップデート	—	

業 績 動 向			売上高	前年比	営業利益	前年比	経常利益	前年比	当期純利益	前年比	EPS
			百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
2011/3	1Q(4-6月)	実績	1,108	-10.5	-67	赤拵	-55	赤拵	-40	赤拵	-11.05
2012/3	1Q(4-6月)	実績	1,167	5.4	-51	赤縮	-46	赤縮	-27	赤縮	-7.40
2011/3	通期	実績	5,494	-1.4	137	53.0	163	42.4	80	—	21.99
2012/3	通期	新・会社予想 (2011年8月発表)	6,132	11.6	210	53.4	219	34.1	122	52.7	33.58
		旧・会社予想 (2011年5月発表)	6,132	11.6	210	53.4	219	34.1	122	52.7	33.58
		新・アナ予想 旧・アナ予想 (2011年1月発表)	5,800	5.6	200	46.0	210	28.8	100	25.0	27.31
2013/3	通期	ア ナ 予 想	6,200	6.9	250	25.0	260	23.8	140	40.0	38.23

業 績

➤ 経営環境解説

東日本大震災の影響により、企業の IT 投資は減退傾向にあるとみられる。調査会社 IDC の「大震災の影響を考慮した国内 IT 市場予測」によれば、2011 年の国内 IT 市場は 12 兆 165 億円（前年比 4.5%減）とされ、震災前予測（11 年 2 月発表）の 12 兆 6,172 億円（同 0.6%増）に比べ大幅に下方修正された。

当社顧客でも、最大顧客の本田技研工業などにおいてサプライチェーンの寸断など震災による業況の悪化が懸念されたため、不要不急の IT 投資が抑制され、当社のシステム開発事業における受注環境も大きく悪化する懸念が生じていた。ただ、実際は 7 月以降、当社顧客の IT 投資は、ほぼ平常時に戻っている模様。

一方、データエントリーなどの情報処理サービス事業及びアッセンブリー事業については、震災の影響は軽微にとどまっている。

➤ 業績解説

12 年 3 月期 1Q の連結業績は、売上高が前年同期比 5.4%増の 11 億 6,700 万円、営業損益が 5,100 万円の赤字（前年同期は 6,700 万円の赤字）となった。セグメント別の内訳をみると、システム開発事業は売上高が同 14.2%増の 6 億 9,900 万円、営業損益が 4,800 万円の赤字（同 6,200 万円の赤字）と収益が改善しているものの、会社の想定に対してはショートした模様。震災の影響により顧客企業が不要不急の IT 投資を抑制していたため、一部の案件でプロジェクト開始が遅れたことが主因である。なお、予定されていた案件でキャンセルは発生していないようだ。

これに対し、情報処理サービス事業は、売上高が同 6.7%減の 3 億 4,000 万円、営業損益が 2,400 万円の赤字（同 2,400 万円の赤字）となった。同事業は需要の伸び悩みに加え、競争激化による単価下落が進んでおり、前年に引き続き厳しい状況となっている。こうした状況において、当社は新規案件の受注獲得に注力したものの、継続案件の売上規模縮小により業務の全体量が減少した。

アッセンブリー事業は、震災による特段の影響はみられず、売上高が同 2.2%減の 1 億 2,700 万円、営業利益が同 14.0%増の 2,100 万円と堅調に推移している。同事業ではパッケージソフトの製品化について、CD-ROM の製造から印刷物の作成、梱包、配送に至るまで全ての工程をワンストップで提供している。主要顧客であるピー・シー・エー向けが売上高の大半を占めているため、収益の変動は他の 2 事業に比べ少ない。

1Q セグメント別業績（単位：百万円）

	売上高		営業利益	
	11年3月期1Q	12年3月期1Q	11年3月期1Q	12年3月期1Q
システム開発	612	699	-62	-48
情報処理サービス	364	340	-24	-24
アッセンブリー	130	127	19	21
合計	1,108	1,167	-67	-51

（会社資料よりモーニングスター作成）

業 績

▶ 業績予想（会社予想）

12年3月期の連結業績予想について会社側は、売上高が前年比11.6%増の61億3,200万円、営業利益が同53.4%増の2億1,000万円と、期初予想を変更していない。期初予想については、震災の影響を折り込んでいないとしていたため、モーニングスターでは震災の影響がみえてきた時点で業績予想を修正する可能性があるとしていた。実際、システム開発事業において震災の影響により一部案件でプロジェクトの開始が遅れるなどの動きがみられたものの、7月以降、こうした状況はほぼ解消されてきている。通年ベースの業務量は計画値を維持していることから、通期業績に対する震災の影響は軽微なものになると会社側は想定している。

一方、会社側ではセグメント別の業績予想数値を非開示としているが、システム開発事業については、スタートが遅れていたプロジェクトも7月までには順次開始されたため、通期の売上見通しについては変更していない模様。11年3月期は売上高が32億8,100万円（前年比2.6%増）と増収となり、営業損益も5,200万円の黒字（前年は600万円の赤字）に回復。12年3月期についても、主要顧客からの受注案件が徐々に増加しており、増収増益を見込んでいるようだ。

情報処理サービス事業については、震災による影響はそれほどみられなかったが、需要の減少及び単価の下落により収益性は低下している。これに対し、当社はエントリー作業を作業者がWebにより自宅で行うWebエントリーを拡大していく方針。Webエントリーは、通常の勤務型エントリーに比べ経費を抑えることができ、収益性の改善を図っていくとしている。11年3月期は売上高が16億500万円（同8.8%減）、営業損益が2,300万円の赤字（同1,100万円の黒字）と低迷したが、12年3月期はWebエントリー導入効果により増収・営業黒字回復を見込んでいる模様である。

アッセンブリー事業についても震災による影響はほとんどみられなかった。同事業の売上高推移をみると、6億1,100万円（10年3月期）→6億700万円（11年3月期）と安定して推移している。会社側では、12年3月期も主要顧客であるピー・シー・エー向けの売上が引き続き安定して推移すると想定し、売上高・営業利益ともに前年並みを想定しているようだ。

セグメント別業績（通年ベース）の推移（単位：百万円）

	売上高		営業利益	
	10年3月期	11年3月期	10年3月期	11年3月期
システム開発	3,197	3,281	-6	52
情報処理サービス	1,760	1,605	11	-23
アッセンブリー	611	607	78	108
合計	5,570	5,494	89	137

（会社資料よりモーニングスター作成）

業 績

▶ 業績予想（モーニングスター予想）

一方、モーニングスターでは12年3月期の連結業績予想について、売上高58億円（前年比5.6%増）、営業利益2億円（同46.0%増）と従来予想を変更していない。

そのセグメント別の内訳としては、システム開発事業では売上高38億円（前年比15.8%増）、営業利益1億円（同92.3%増）と想定している。当社は本田技研工業をはじめ大手企業を安定顧客にもつため、震災の影響が軽微にとどまれば、安定した収益回復が見込められると思われる。

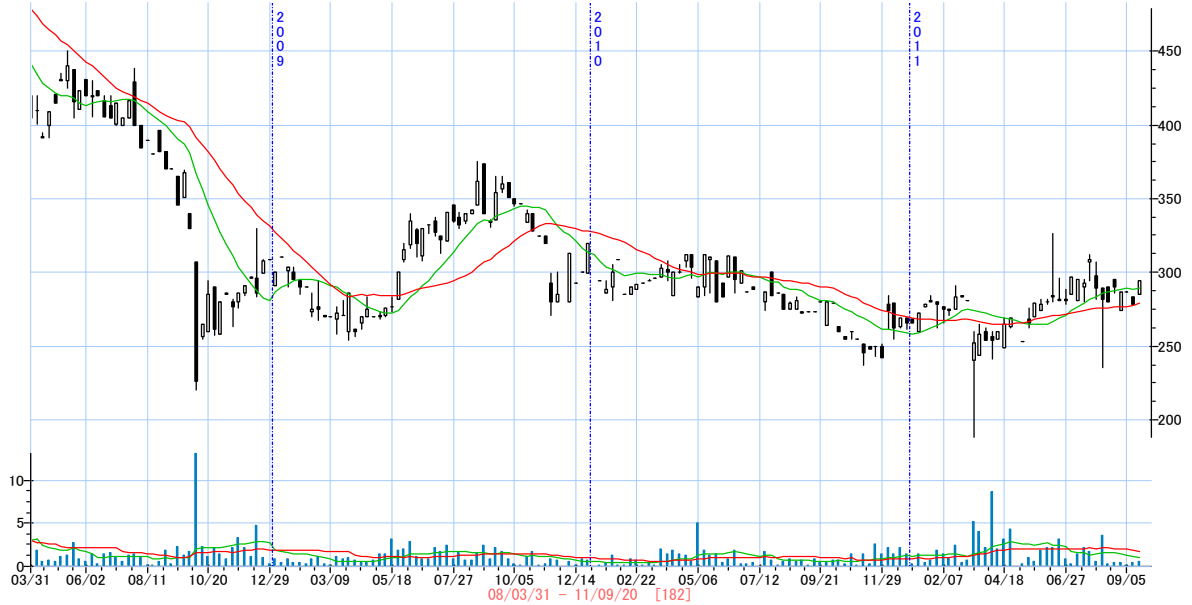
一方、収益低下が続いている情報処理サービス事業については、今後も厳しい事業環境が続くとみられる。会社側では、下期以降はWebエントリー導入効果が現れるとしているものの、モーニングスターではこれによる寄与は未知数と考える。1Q実績が赤字であることなどを考慮すると、同事業の収益性改善は緩やかなものにとどまると考え、通期予想については、売上高が14億円（同12.8%減）、営業損益が収支0円（前年は2,300万円の赤字）と予想している。

アッセンブリー事業については、足元で事業環境に変化がみられないことから、12年3月期についても前年並みの収益を想定。売上高6億円（同1.2%減）、営業利益1億円（同7.4%減）とみている。

会社側予想の内訳が不明なため、セグメント別想定と比較はできないが、この結果、モーニングスターでは12年3月期の連結業績予想について、会社予想と比べ売上高・利益ともやや低い数字を予想している。

ただ、13年3月期の連結業績予想については、売上高62億円、営業利益2億5,000万円と緩やかな収益拡大が続くと予想している。システム開発事業が引き続き堅調に推移するとみているほか、情報処理サービス事業についてもWebエントリー効果による収益性の改善が進むと想定。ただ、アッセンブリー事業は横ばいで推移すると想定している。

システムズD [3766/JQ] 選足 2011/09/22



(出所) 株式会社QUICK

上記チャート図の一部又は全部を、方法の如何を問わず、また、有償・無償に関わらず第三者に配布してはいけません。
 上記チャート図に過誤等がある場合でも株式会社QUICK社及び大阪証券取引所は一切責任を負いません。
 上記チャート図の複製、改変、第三者への再配布を一切行ってはいけません。

			2009/3	2010/3	2011/3	2012/3 予 (アナリスト)
株 価 推 移	株 価 (年 間 高 値)	円	450	375	312	-
	株 価 (年 間 安 値)	円	220	256	188	-
	月 間 平 均 出 来 高	百 株	287	210	244	-
業 績 推 移	売 上 高	百 万 円	6,963	5,570	5,494	5,800
	営 業 利 益	百 万 円	371	89	137	200
	経 常 利 益	百 万 円	373	114	163	210
	当 期 純 利 益	百 万 円	214	2	80	100
	E P S	円	55.66	0.79	21.99	27.31
	R O E	%	6.4	0.1	2.4	-
貸借対照表 主 要 項 目	流 動 資 産 合 計	百 万 円	3,511	3,408	3,618	-
	固 定 資 産 合 計	百 万 円	1,127	1,112	1,062	-
	資 産 合 計	百 万 円	4,638	4,520	4,681	-
	流 動 負 債 合 計	百 万 円	692	570	621	-
	固 定 負 債 合 計	百 万 円	500	538	597	-
	負 債 合 計	百 万 円	1,192	1,109	1,218	-
	株 主 資 本 合 計	百 万 円	3,408	3,363	3,414	-
キャッシュフ ロー計算書 主 要 項 目	純 資 産 合 計	百 万 円	3,446	3,411	3,462	-
	営 業 活 動 に よ る CF	百 万 円	266	116	305	-
	投 資 活 動 に よ る CF	百 万 円	-73	-109	-21	-
	財 務 活 動 に よ る CF	百 万 円	-136	-51	-30	-
	現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 末 残 高	百 万 円	2,101	2,055	2,309	-

ディスクレーム

1. 本レポートは、株式会社大阪証券取引所（以下「大証」といいます。）が実施する「JASDAQアナリストレポート・プラットフォーム」を利用して作成されたものであり、大証が作成したものではありません。
2. 本レポートは、本レポートの対象となる企業が、その作成費用を支払うことを約束することにより作成されたものであり、その作成費用は、当該企業が大証に支払った金額に大証からの助成金を加えたうえでモーニングスター株式会社（以下「レポート作成会社」といいます。）に支払われています。
3. 本レポートは、大証によるレビューや承認を受けておりません（ただし、大証が文面上から明らかに誤りがある場合や適当でない場合にレポート作成会社に対して指摘を行うことを妨げるものではありません）。
4. レポート作成会社及び担当アナリストには、この資料に記載された企業との間に本レポートに表示される重大な利益相反以外の重大な利益相反の関係はありません。
5. 本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的として作成されたもので、有価証券の取引及びその他の取引の勧誘又は誘引を目的とするものではありません。有価証券の取引には、相場変動その他の要因により、損失が生じるおそれがあります。また、本レポートの対象となる企業は、投資の知識・経験、財産の状況及び投資目的が異なるすべての投資者の方々に、投資対象として、一律に適合するとは限りません。銘柄の選択、投資判断の最終決定は、投資者ご自身の判断でなされるようお願いいたします。
6. 本レポート作成にあたり、レポート作成会社は本レポートの対象となる企業との面会等を通じて、当該企業より情報提供を受けておりますが、本レポートに含まれる仮説や結論は当該企業によるものではなく、レポート作成会社の分析及び評価によるものです。また、本レポートの内容はすべて作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
7. 本レポートは、レポート作成会社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、大証及びレポート作成会社は、本レポートの記載内容が真実かつ正確であり、そのうちに重要な事項の記載が欠けていないことやこの資料に記載された企業の発行する有価証券の価値を保証又は承認するものではありません。本レポート及び本レポートに含まれる情報は、いかなる目的で使用される場合におきましても、投資者の判断と責任において使用されるべきものであり、本レポート及び本レポートに含まれる情報の使用による結果について、大証及びレポート作成会社は何ら責任を負うものではありません。
8. 本レポートの著作権は、レポート作成会社に帰属しますが、レポート作成会社は、本レポートの著作権を大証に独占的に利用許諾しております。そのため本レポートの情報について、大証の承諾を得ずに複製、販売、使用、公表及び配布を行うことは法律で禁じられています。

< 指標の説明について >

本レポートに記載の指標に関する説明は、大阪証券取引所ウェブサイトに掲載されております。

参照 URL ⇒ <http://www.ose.or.jp/jasdaq/5578>